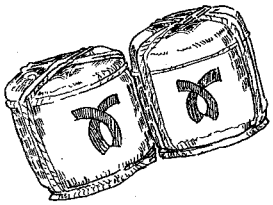
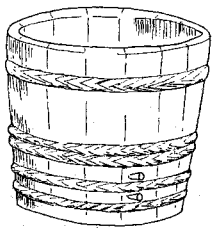




みかげごうこさかぐらぐん
御影郷古酒蔵群　第２次発掘調査

現場公開のしおり　2003年8月3～5日

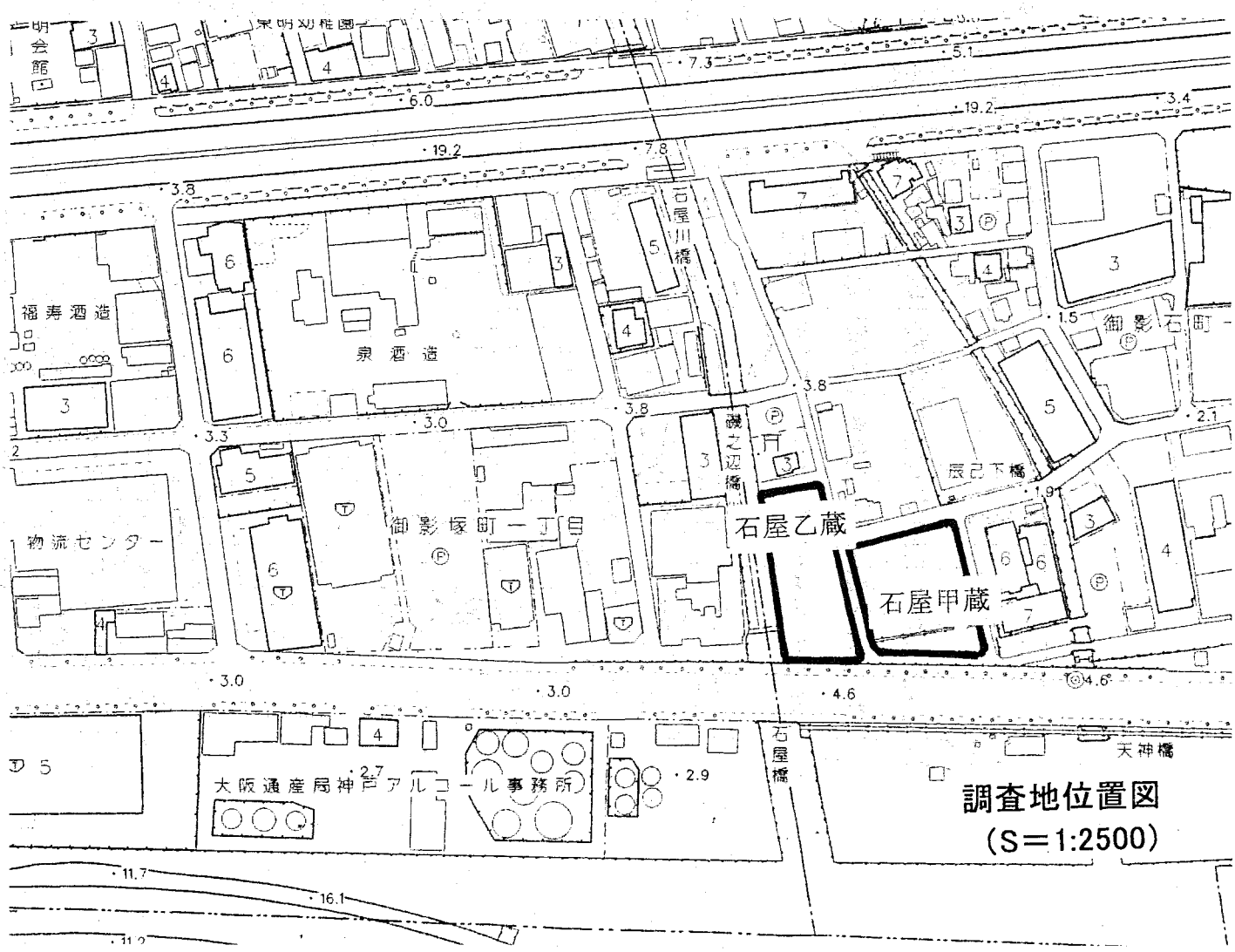
1. はじめに

御影郷は、日本一の酒処として有名な灘五郷（西郷・御影郷・魚崎郷・西宮郷・今津郷）のうちの一つとして知られています。

この御影郷は石屋川の両岸にかけての地域に位置し、東西1.5ｋｍ・南北0.6ｋｍほどの範囲に、かつては古い酒蔵が密集する町並みが見られました。

石屋川左岸の河口に近くには、白鶴酒造の**石屋甲蔵・乙蔵（通称なみがえし蔵）**がありました。この蔵は、酒造りの作業場である「前蔵」と呼ばれる部分と仕込みおよび貯蔵庫である「大蔵」と呼ばれる部分が南北に連結する構造をもつ、木造酒蔵の典型的な**重ね蔵**の形式を保つものでしたが、残念なことに、平成７年の阪神・淡路大震災により倒壊し、撤去されました。

今回の発掘調査によって、この場所において江戸時代の後期から近代まで続く酒造りのようすが明らかとなりました。



調査地位置図
（S＝1:2500）

2. 調査成果

今回の調査地は、甲蔵と乙蔵の２ヶ所に分かれますが、ともに「前蔵」にあたる部分において、江戸時代後期から現代までの**酒造りにともなう遺構**が発見されました。

見つかったのは、蔵の礎石や酒造りの施設である**釜場・槽場**などがあります。

建物の礎石は、建て替えられるたびに取り除かれたりしたようで、古い時期のものについては、不明です。釜場・槽場などは、地下式の施設であったために比較的残りが良く、その変遷をみることができました。

釜場とは、竈や焚口を設けてそこに大釜や甑（蒸し器）を据えて米を蒸す場所です。深く掘り込まれて石垣で囲われています。竈は、江戸時代には土や漆喰で、やがて明治時代に入ると煉瓦を使って造られました。

また、**槽場とは、**発酵して「もろみ」となったものを袋に入れ、水槽のような木箱に積んで、テコを利用して押さえつけて酒を搾った施設です。このときテコの支点となる**男柱**と呼ばれる柱を立てた穴や、搾られた酒が溜まる**垂壷**と呼ばれる甕を据えた痕なども見つかっています。

3. まとめ

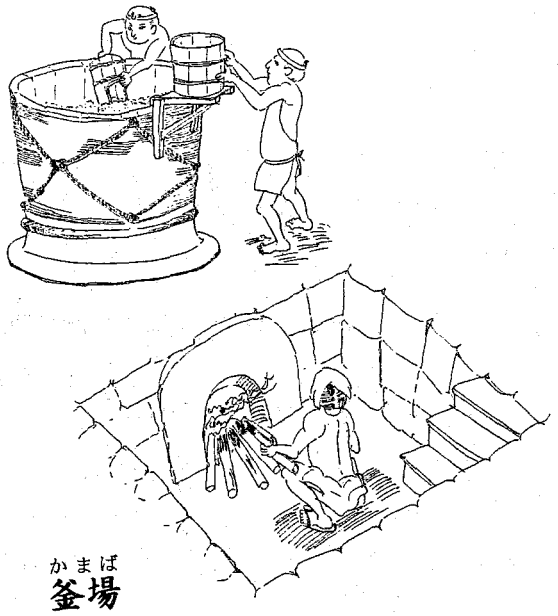
今まで御影郷においては、江戸時代後期の酒蔵は確認されていませんでした。

今回の調査によって、御影郷においても灘地域で酒造産業が成立する江戸時代後期には、酒造りが行われていたことが実証されました。

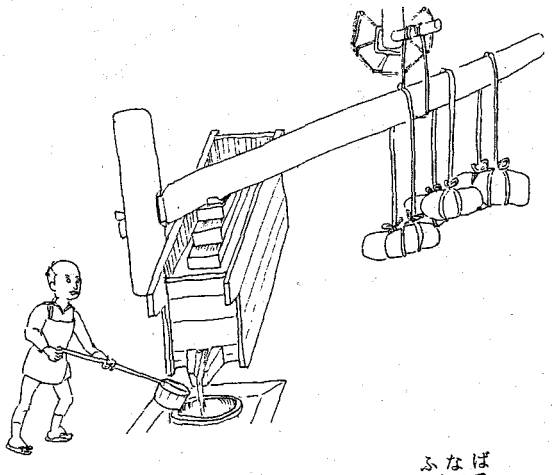
また、各時代の遺構が見つかったことによって酒造りの技術がどのように変化していったのかを知ることができる貴重な資料を得ることができました。

	遺構名	規模	時期
甲蔵	釜場 Ⅰ	南北長４m・東西幅 4.4m	明治時代
	釜場 Ⅱ	南北長 4.2m・東西幅 3.6m	江戸時代末期
	釜場 Ⅲ	南北長 4.9m・東西幅 3.0m	江戸時代後期
	槽場 Ⅰ	不明	（昭和？）
	槽場 Ⅱ	長さ 10m以上・幅 3.0m	明治時代
	槽場 Ⅲ	長さ 3.8m・幅 2.0～2.7m・深さ 1.75m	明治時代
	槽場 Ⅳ	長さ 4.2m・幅 2.0m・深さ 1.7m	江戸時代後期
乙蔵	釜場 Ⅰ	南北長 8.4m・東西幅 4.5m	明治時代
	釜場 Ⅱ	南北長 4.7m・東西幅 3.2m	江戸時代末期
	槽場 Ⅰ	長さ６m以上・幅 1.8m	明治時代以降
	槽場 Ⅱ	長さ 6.5m・幅 2.5m以上	明治時代

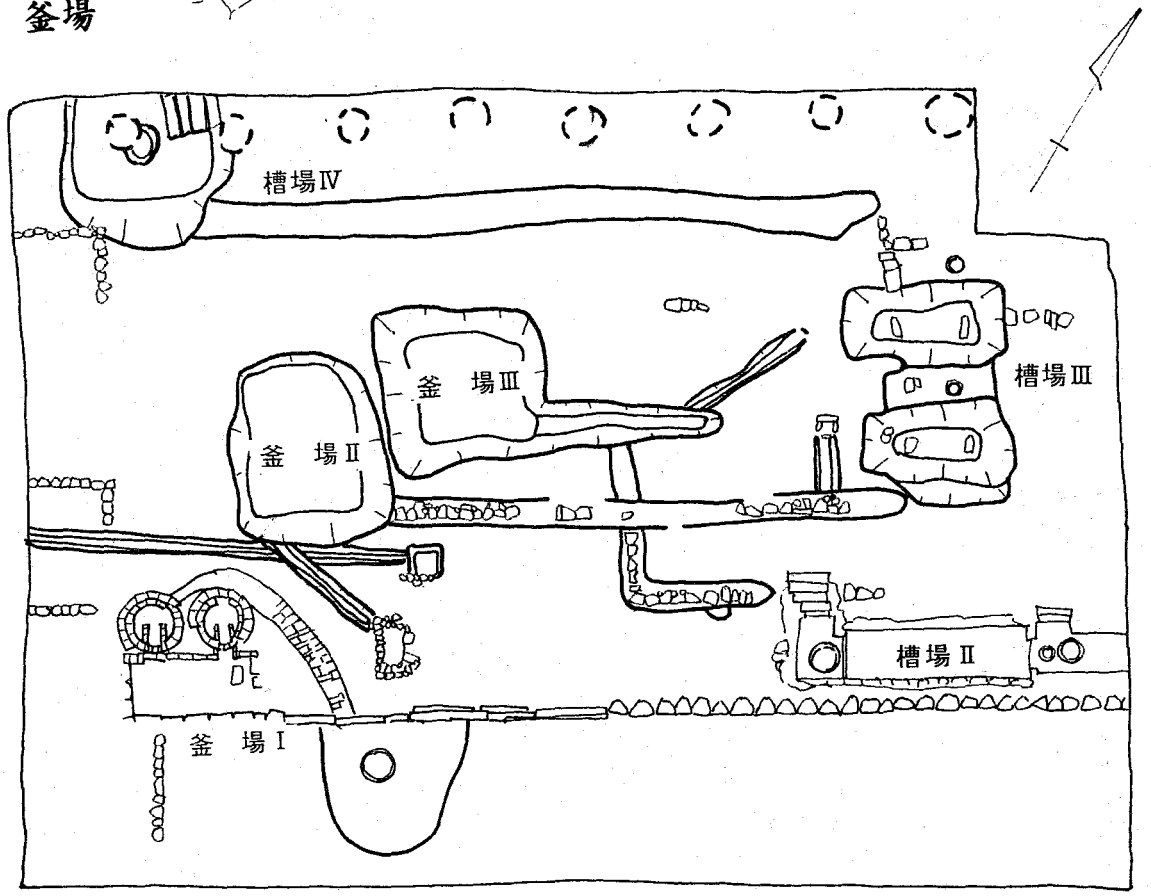
主要遺構一覧表



釜場（かまば）

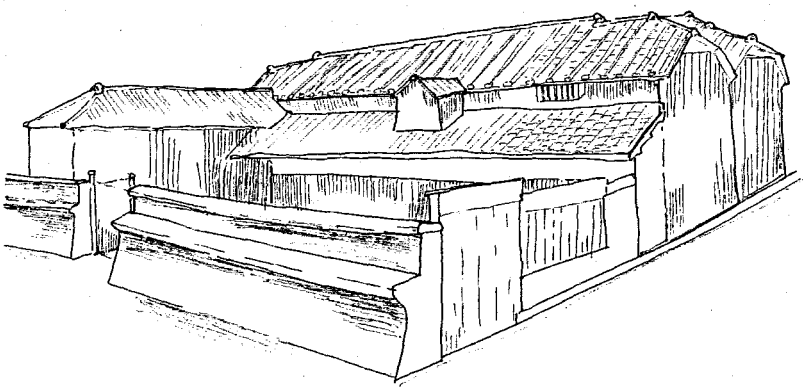


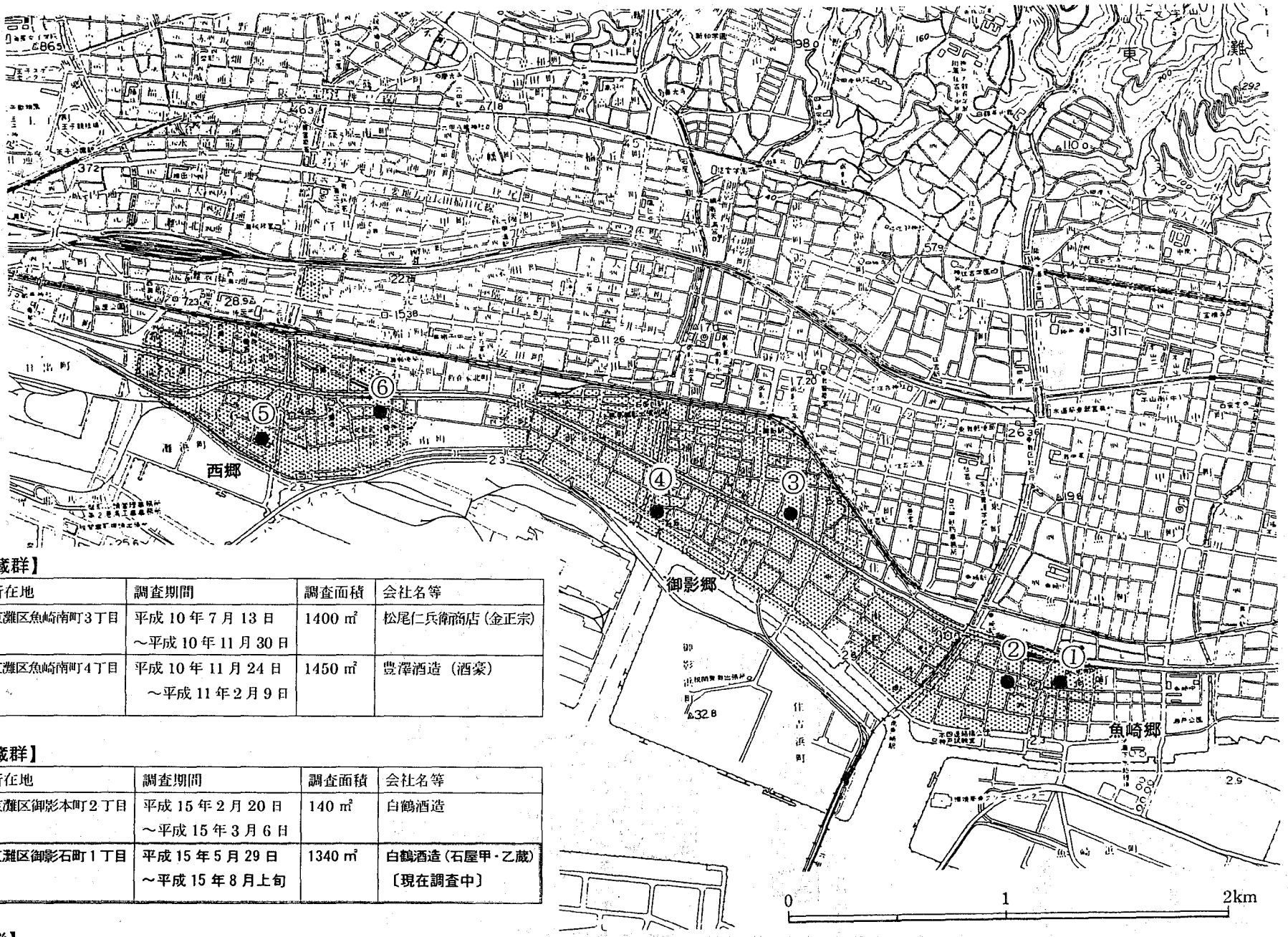
槽場（ふなば）



0　20m

甲蔵　遺構平面図





【魚崎郷古酒蔵群】

	調査次数	所在地	調査期間	調査面積	会社名等
①	第１次	東灘区魚崎南町３丁目	平成 10 年 7 月 13 日 ～平成 10 年 11 月 30 日	1400 ㎡	松尾仁兵衛商店（金正宗）
②	第２次	東灘区魚崎南町４丁目	平成 10 年 11 月 24 日 ～平成 11 年２月９日	1450 ㎡	豊澤酒造（酒豪）

【御影郷古酒蔵群】

	調査次数	所在地	調査期間	調査面積	会社名等
③	第１次	東灘区御影本町２丁目	平成 15 年２月 20 日 ～平成 15 年３月６日	140 ㎡	白鶴酒造
④	第２次	東灘区御影石町１丁目	平成 15 年５月 29 日 ～平成 15 年８月上旬	1340 ㎡	白鶴酒造（石屋甲・乙蔵） 〔現在調査中〕

【西郷古酒蔵群】

	調査次数	所在地	調査期間	調査面積	会社名等
⑤	第１次	灘区大石南町１丁目	平成８年 10 月７日 ～平成９年１月 17 日	700 ㎡	沢の鶴（大石蔵）
⑥	第２次	東灘区新在家南町３丁目	平成 10 年１月 12 日 ～平成 10 年３月 18 日	300 ㎡	月桂冠灘支店

魚崎郷・御影郷・西郷における発掘調査地点